



第 2 図 塩崎遺跡群周辺の遺跡および塩崎遺跡群調査地点

塩崎遺跡群現地公開説明資料
 長野県埋蔵文化財センター
 事務所：026-293-5926
 発掘現場：080-9560-1354（担当者：市川）
 発行：平成 28 年 11 月 19 日

所在地：長野市篠ノ井塩崎
調査原因：国土交通省長野国道事務所による一般国道 18 号(坂城更埴バイパス)改築工事
調査期間：平成 28 年 4 月 13 日～12 月 15 日
調査面積：平成 28 年度：4,000 m²

1 遺跡の概要

塩崎遺跡群は千曲川の自然堤防上にあります。これまで長野市教育委員会の数次にわたる発掘調査が実施されてきました。伊勢宮地点では渡来系の特徴を持つ弥生時代の人骨が見つかるなど以前より注目を集めてきた遺跡です。今回の国道 18 号線(坂城更埴バイパス)改築工事に先立つ発掘調査は平成 25 年度から進められてきています。

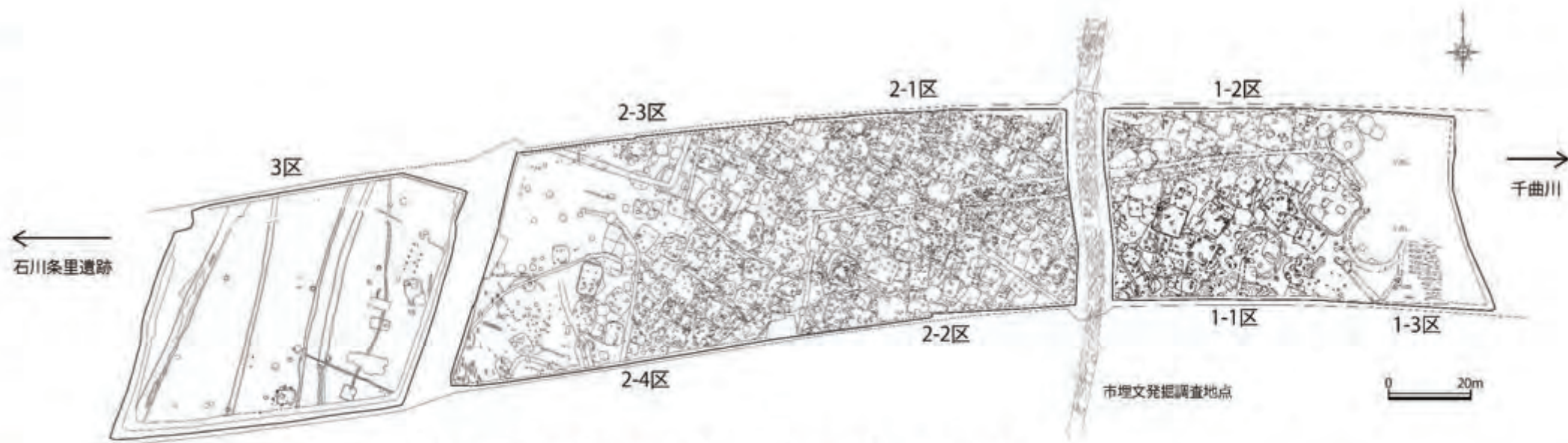
昨年までの 3 年間におよぶ調査では、^{たてあな}堅穴住居跡 462 軒や墓跡 88 基をはじめとする多数の遺構と約 1800 箱を超える土器や石器の他、鉄剣、玉類などの多様な遺物が多量に出土しています。弥生時代から平安時代にかけて営まれた大規模な集落遺跡であることがわかってきました。

2 本年度の調査の成果 ～発見！弥生の環濠～

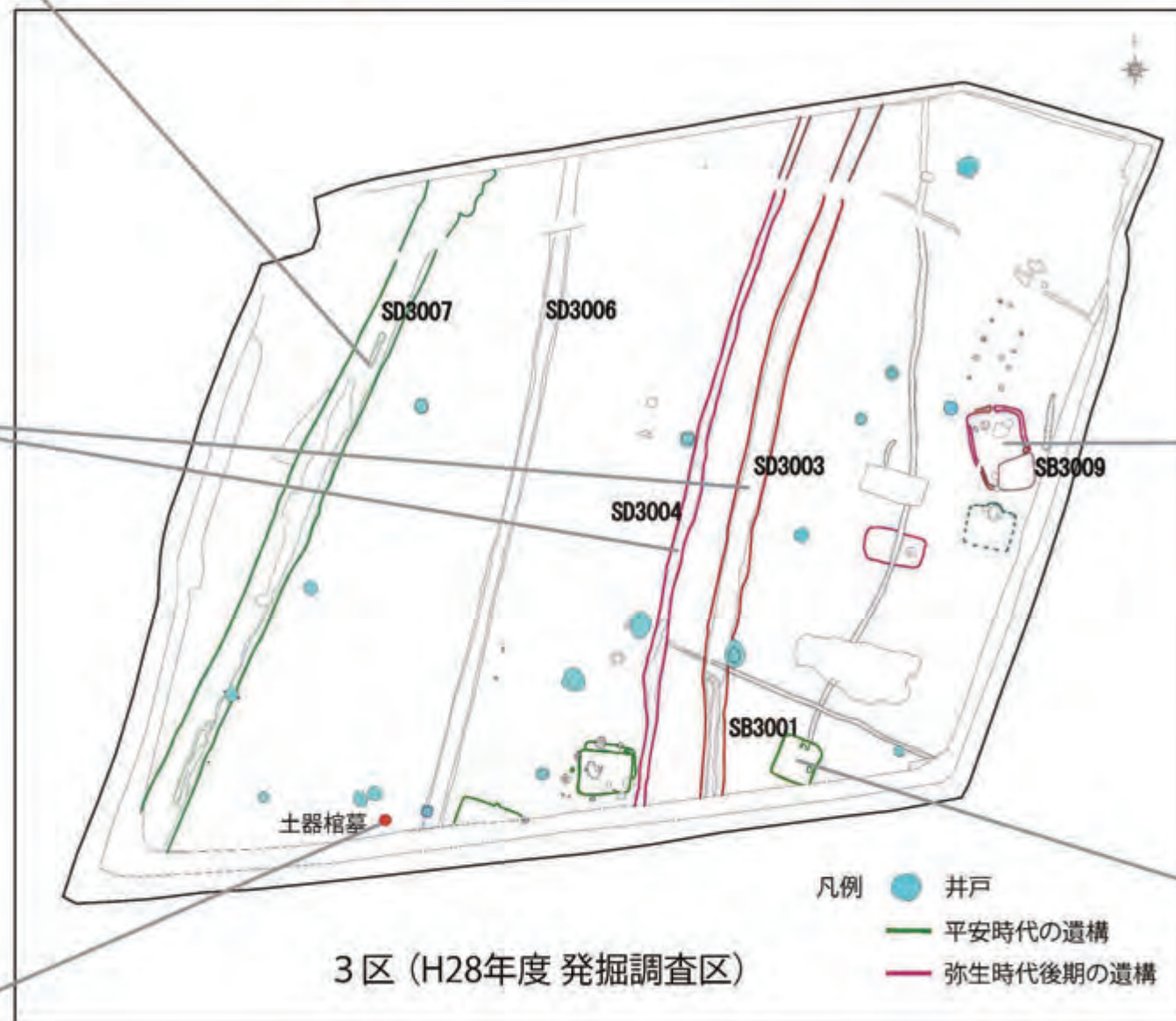
今年度の調査(3 区)では、現在までのところ堅穴住居跡 7 軒、溝跡 10 条、土器棺墓 1 基、井戸跡 18 基を含む土坑約 80 基などが発見されています。みつかったこれらの遺構や出土した遺物には、弥生時代後期～古墳時代前期のものと平安時代のものとがみられます。

今回の調査で最大の成果は、弥生時代後期のムラを巡る環濠が発見されたことです。県内では近接する篠ノ井遺跡群など十数例しか発見されていません。調査区中央の SD3003・3004 と名付けた 2 つの溝跡が環濠と考えられ、これより西側には土器棺墓が 1 基あるのみで弥生時代の堅穴住居跡はありません。今回の調査区でみつかった弥生時代の堅穴住居跡 2 軒も環濠の内側にあたりますので、この環濠により弥生時代の「塩崎ムラ」の西の境界が判明したことになります。環濠は外敵からムラを守るために造られたのがはじまりですが、県内の事例では戦いに備える逆茂木などの痕跡はほとんどないので、防御というよりもムラを外と区切るためのものであったと考えられます。

平安時代には堅穴住居跡 5 軒の他、水田に伴う水路と想定される溝跡(SD3007)がみつかりました。今回の調査区より西側は後背湿地となっており、「塩崎ムラ」を支えた水田が広がる石川条里遺跡へと続いていきます。



発掘調査区全体図 (H25~28年度 発掘調査区)



第1図 塩崎遺跡群 発掘調査区略図